

米沢興議館 SSH通信

第5号

平成24年8月27日
米興高SSH企画部

7月28日及び29日に、山形大学工学部を会場として「科学フェスティバル in 米沢」科学体感カーニバルが開催された。本イベントは、地域の高等教育機関である山形大学工学部が、地域の小中高校などの教育機関や地域の企業と連携し、次世代を担う子供たちの感性をはぐくみ育てる機会として提供している。例年、高校側としては、地区の高等学校教育研究会理科部会の物理専門部と化学専門部がブース出店している。

本校理科科は「科学コミュニケーション」をテーマに理数教育の推進を図っていることもあり、昨年度に引き続き、高校理科教員の指導を仰ぎながら、理数科2年生徒がブースTAとして科学フェスティバルに参加した。その取り組みを生徒の感想で振り返る。

科学フェスティバル in よねざわ 2012



2012.7.28(土)・29(日) 10:00-16:00
山形大学工学部

科学フェスティバル実行委員会

僕等はこの笑顔のために科学を伝える



未来の科学を担う子ども達

有路 璃菜(米沢二中出身)

私ははっきり言って誰かに何かを教えたり、子供達と接したりすることが苦手です。科学フェスティバルが行われる日の朝、私はちゃんと自分の仕事ができるのか不安でいっぱいでした。

しかし、やってみると子どもの反応はかわいく面白いものでした。真剣に取り組む姿やおどろく表情、笑顔などがとても新鮮で教えるということに難しいけど結構楽しいんだなど、逆に子供達に教えてもらいました。

大変なこともありましたが、周りの人の助けもあり、とても楽しい一日を過ごすことができてよかったです。

それに、科学は面白いと再確認できました。この面白さが科学フェスティバルを通してたくさんの子供達に伝わっていることを願います。その子供達が理数科に入ってくれたら嬉しいですね。

科学を楽しむ

戸野塚 克也(川西二中出身)

今回、科学フェスティバルに参加したことで、様々な事を学ぶことができた。

科学を通しての交流

佐藤 卓(宮内中出身)

科学フェスティバルに参加して、今まで経験したことのないとても貴重な体験をさせていただいたと感じています。

子ども達に現象の説明をする際はそれぞれの年齢にあった言葉選びをしなければならず、それがとても大変でした。また子ども達に教えるためには自分自身が十分に理解していなければならず、突然の鋭い質問に間々戸惑うこともありました。

科学フェスティバルは科学に興味・関心を持つためには絶好の場であると感じました。世代の異

科学フェスティバルに参加して

松岸 諒(川西一中出身)

私はお昼の部で科学フェスティバルに参加させていただきました。当日は夏休みということもあってか、何組もの親子連れの方々がいらつしました。私も昔このような企画に参加したことがありましたが、教える側になるのは初めてだったのでとても緊張してしまいました。

私が担当したのは電気パンとヨウ素時計反応でしたが、電気パンの方はお客さんを待たせてしまいました。しかし、皆おいしそうに食べてくれたのでよかったです。ヨウ素時計反応では説明が難しかったのですが、工学部の方が説明を省いているのを見て、子供の興味を引くのが一番で難しい説明はしない方がいいときもあることが分かりました。

ケミラボや南原文化祭では子供の年齢にあわせて説明ができるよう頑張りたいと思います。